

ワット 会社の雰囲気^{ワット}を1W明るくするコミュレポ

エックスパートナーズ 丹羽 浩之

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにはしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

「面倒くさい」は、妥協の元

いきなりですが、7月にデンタルダイヤモンド社から私の書籍が出版されました。私にとっては、処女作。1年半以上の構想、ユメオカの仲間達やクライアントの院長先生方の協力を頂き、ようやく出版にこぎつけました。全てが私にとっては初めての経験のため、様々な格闘もしてきたのですが、最後の最後にも”事件”が起きました。それは、タイトル決めです。書籍にとってタイトルは、いわば“顔”。私は頭を悩ませ、出版社宛にタイトル案をいくつか出しました。

2週間後、最終原稿とともに届いた表紙案にタイトルが載っていました。タイトルは「脱★常識経営って?」。実はこれ私が提案したタイトルでもなく、私の意図が反映されていると思えるタイトルでもありませんでした。ですが、原稿に張られた付箋には「丹羽さんの意図を編集部で話し合い、このタイトルに決めました。」と書いてあります。私は「私の意図とは全然違うでしょ〜」とガッカリする反面「人は色々と感じ方が違うものだ」と実感せざるを得ませんでした。そこですぐに編集長に電話し、タイトルの意図などを確認すると、「他にもっとインパクトある候補があればまだ変更間に合います」という返事を頂けたのです。

私はどうアプローチしようか考えました。せっかくだらないうちからタイトル案をまた考えても、電話でやり取りしていたら、今回と同じことになりかねません。私は神戸。編集者は東京。ゆえに私たちは、たいていメールや電話で打合せてきました。今まで互いに相手の意図や考え方を尊重し、気遣い合いながら進めてきましたが、今回は少し強気でタイトル案を言うべきか?あるいは相手の意向に合わせるべきか…と悩みます。わざわざ東京に行くのも面倒くさい…。しかし、このタイトルを決めるに当たって担当の編集者、編集長など様々な人が絡んでいることも想像できます。すると、今まで協力し、やってきた経緯を考えると電話での交渉は難しい、と私は判断しました。そこで、さっそく編集長に再び電話し、最後にタイトルを決める場を1時間で構わないので設けて頂きたい旨をお願いしました。私は時間の合間をぬって1時間だけの打ち合わせのため、東京の出版社まで行きました。

さて結果は、良好。タイトルは「ビジョナリークリニックって?」。実は「ビジョナリークリニック」は当初分かりにくいと出版社に反対され、あきらめていた案です。しかし対面で意見を交換した結果、互いに納得するこのタイトルを1時間で決めることが出来ました。当初「きっと変更は難しいし、わざわざ東京に行くのは面倒くさい」と決め付けていました。しかし、きっと電話で折衝していたら、互いの意見を伝え合うのに時間がかかり、その上、気掛かりや不満が残る納得のいかない気持ちを抱えたままだったでしょう。「最終局面では手間を惜しまない」。元々、面倒くさがり屋の私にまた1つ教訓となりました。